

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1－1】専任教員の配置状況

学科の名称	専任教員数						非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考		
	常勤教員		基準数		うち理学療法士数						
理学療法学科二部	6	人	6	人	6	人	27	人	8.5	人	
計	6	人	6	人	6	人	27	人			

【自己評価 1－2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価 1－3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1－4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2－1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15		
		医療倫理学	8		
		日本語表現法	8		
		文化人類学	8		
		社会福祉概論	8		
		生物学	8		
		物理学	8		
		統計学	8		
		健康・スポーツ科学	8		
		外国語	8		
		医療キャリアデザイン	15		
		ホスピタリティー論Ⅰ	8		
		ホスピタリティー論Ⅱ	8	田中 美吉子	兼任

専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖生理学総論	15		
		解剖生理学Ⅰ	30		
		解剖生理学Ⅱ	15		
		解剖生理学Ⅲ	15		
		解剖生理学Ⅳ	15		
		解剖生理学Ⅴ	15		
		解剖生理学Ⅵ	8		
		生理学実習	23		
		人間発達学	15		
		運動学Ⅰ	15		
		運動学Ⅱ	8		
		運動学実習	23		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	8		
			8		
		整形外科Ⅰ	15		
		整形外科Ⅱ	15		
		神経内科学Ⅰ	15		
		神経内科学Ⅱ	15		
		内科学Ⅰ	15		
		内科学Ⅱ	15		
		精神医学	15		
		臨床心理学	15		
		総合臨床医学Ⅰ	15		
		総合臨床医学Ⅱ	15		
		リハビリテーション栄養学	8		
		薬理学	8		
		介護予防論	8		
	保健医療福祉とリハビリテーションの連携	リハビリテーション概論Ⅰ	15		
		リハビリテーション概論Ⅱ	15		
		保健医療福祉制度論	15		
		保健医療福祉専門職連携論	15		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学概論	15		
		機能障害科学	15		
		病態運動学Ⅰ	15		
		病態運動学Ⅱ	15		
		理学療法研究法	15		
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	河合 正行	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15		
		理学療法評価学Ⅱ	30		
		理学療法評価学Ⅲ	15		
		理学療法評価学実習	45		
	理学療法治療学	物理療法学Ⅰ	15		
		物理療法学Ⅱ	15		
		運動療法学	15		
		日常生活活動学Ⅰ	15		
		日常生活活動学Ⅱ	15		
		日常生活活動学実習	23		
		障害別理学療法学Ⅰ	15		
		障害別理学療法学Ⅱ	15		
		障害別理学療法学Ⅲ	15		
		障害別理学療法学Ⅳ	15		
		障害別理学療法学Ⅴ	15		
		義肢・装具学	30		
		スポーツ理学療法	8		
		理学療法技術実習Ⅰ	23		
		理学療法技術実習Ⅱ	23		
		特殊理学療法技術	15	宮田 徳美 他	兼任
		理学療法総合セミナーⅠ	15	小谷泉 他	専任
		理学療法総合セミナーⅡ	30	小谷泉 他	専任
	地域理学療法学	生活環境学	15		
		地域リハビリテーション特論	15		
		リスク管理学	15	早井 あかね	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	100		
		臨床実習Ⅱ	360	臨床実習指導者	兼任

【自己評価2－2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2－3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3－1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3－2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入して下さい。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設その他の見学	1年後期	理学療法学概論	1年前期
理学療法評価の実践	2年後期	理学療法評価学 他	2年前期
理学療法治療技術の実践	3年前期	障害別理学療法学 他	2年後期
通所・訪問リハビリテーションの見学	3年後期	地域リハビリテーション特論	2年前期

【自己評価3－3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3－4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3－5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4－1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会		
委員名（委員長）	学校関係者評価委員		
組織の開催頻度	1年に3回		
組織の取り組み内容	・年度目標に対する評価や助言		
	・中間評価に対する評価や助言		
	・学院の自己評価調査結果及び改善策についての評価		
	・次年度の教育活動その他学校運営結果の改善に対する助言		
自己点検・評価結果の公表	H Pで公開(http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/)		

【自己評価4－2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務部
	委員構成等	部長・副部長・各学科教務部員(PT・OT・ST)
	改善の仕組みの実際	教務部会議において定期的にシラバスに必要な追加項目の検討を実施。シラバスの記載内容の吟味を実施。

【自己評価4－3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学院として中・長期的な事業計画を踏まえ、自己点検・評価及び第三者評価の結果を単年度計画に盛り込み、学院全体で組織的に取り組んでいる。また、運営会議を実施し、目標達成に向けた課題の具体的な取組みを示し、職員会議にて教職員に周知し取り組んでいる。
